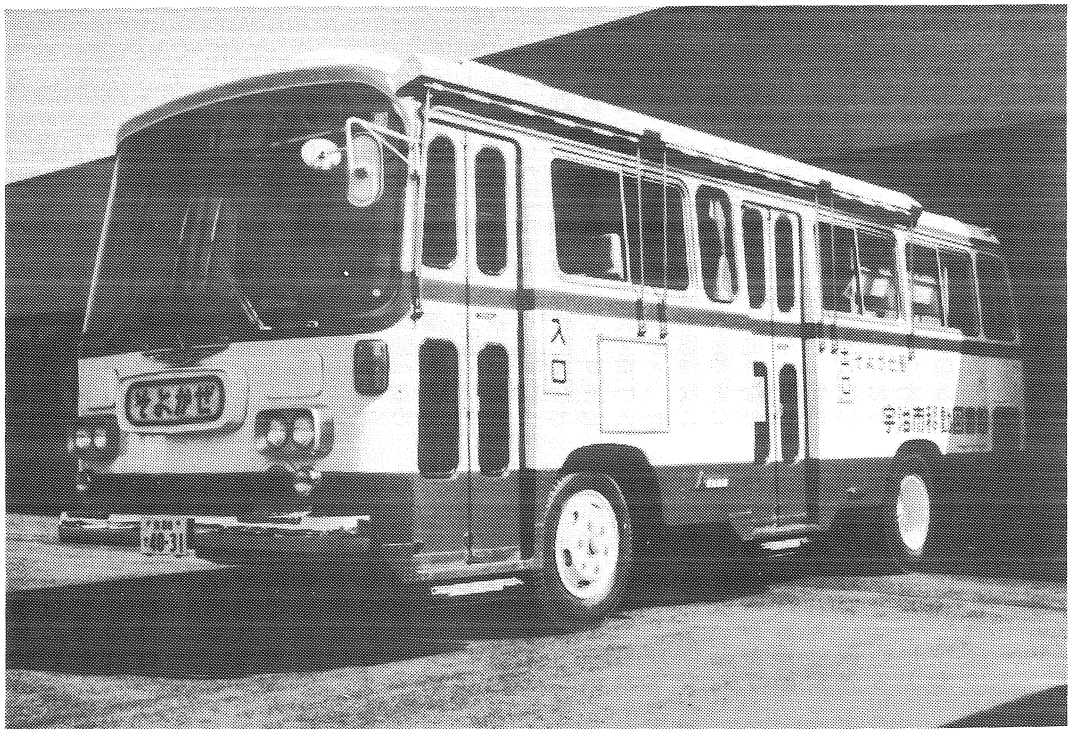


# としょかん宇治

No. 6

1985年7月1日 発行  
宇治市文化センター  
宇治市中央図書館  
〒611  
宇治市折居台1丁目1番地  
電話 (20) 1511



移動図書館『そよかぜ号』です。  
動く図書館として、市内 23 カ所を巡回しています。

## 「市民の書齋」と なるために

館長 五十嵐 一郎

昔、公共図書館は受験生や学生だけが静かに勉強する「自習室」のイメージが強く、誰もが気軽に入れる雰囲気ではありませんでした。しかし今は誰もが欲しい本や雑誌などの提供をうけられるところに生れかわっています。

「友だちがくるのだが、何をこちそうしようかしら」「ベランダでの野菜の作り方が知りたくて」「ハイキングコースの下調べに」…… などなど日常生活を営む上で、ちょっと知りたいことが沢山あります。このような時にも図書館は有効に応じられる場になっています。

図書館は市民の書齋であるといわれますが、利用の目的がなんであれ、すぐ図書館を思い、足をはこんでもらってはじめ、本当に市民の書齋になったといえるでしょう。

宇治市は、大きな固定式書齋といえる中央図書館とバスに本をつんで市民の身近かに出向いて行く移動書齋「そよかぜ号」(上の写真)とで図書館奉仕をしています。

市民に役立つ書齋をめざして確実な一歩をふみだしました。  
ご意見をお寄せ下さい。

# 市民の投稿欄

今回より市民の投稿欄として、このページを活用したいと思ひます。

市民の皆さんの声をおよせ下さい。

## 読書は習慣

— いい文学老人に  
なるために —

永田 璞子

私の基敵であるMさんは、どうみても、もっさいおじさんである。そのMさんが還暦を真近にして、最近俳句を始めた。私はその自作の句を聞かされる羽目にしばしば落ちる。褒めるのは口惜しいのでけなしてはいるが、内心はびっくり、顔に似合はない美しい句でありロマンチックなのだ。きけば、戦前の彼は文学少年であり、啄木を殆ど暗誦していたとか。やはり…と思わざるを得ない。昔とった杵柄は無駄ではなかった。そういう私も、かつては自称文学少女。佐藤紅緑の少女小説に胸をときめかし、高山樗牛の美文に酔い、若きウェルテルの悩みに感動し、モンテ・クリスト伯に興奮、又は流行におくれまいとプロレタリア文

学を漁り、芥川龍之介や太宰治を論じ、一ぱしの文学少女振ったものだ。それらの本は殆ど、図書室や友人から借り、たまにお金が入ると岩波文庫の二ツ星位の安い本を買って読んでいた。読書は正に当時の若者の条件であり、流行であった。今、本をレコードに図書室を貸しレコード屋に置きかえると、現在の若者の姿になるのではないかと思う。音楽こそ現代若者の条件のようだ。いつのまに本とすり代ったのであろうか。

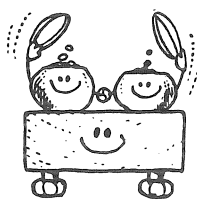
私の夫は、本を買って並べるのが趣味で、話題書は勿論、昔愛読した本もなつかしがつって新しく買い直して並べている。我家の書棚は一寸した図書室となつて、友人や近所の人達が借出帳に記入して真新しい本を借りて行く。又その人達のリクエストに応えて買い入れることもある。そうなる、かつての文学少女の私は不思議なことに、パタッと我家の本を読まなくなつてしまつた。へそ曲りなのか、それが俗人の心理なのか私にもわからないが、そのくせ、新幹線に乗る時など、駅でつまらない文庫本を買って読むのだからおかし。又、友人に紹介された本は探しても買って読む。この読み方して友人に笑われたくないという気持があるからだろう。それなのに我家にたくさん並んでいる新刊

書には手がいかない。別に夫に反抗しているわけでもないのに。私の周囲の人は、どんどん我家の本を持ち出して楽しんでるというのに私は知らん顔。余り恵まれた環境は人を駄目にしてしまう標本のような。ハングリーでない駄目なのだろうか。これは今の若者に共通して言えることであつて、私も変な所で若者並みなものかもしれない。もし我家に本が無く、買おうお金にも事欠いているのなら、私は昔をなつかしみ、読みたい一心で遠い図書館にでも出向き、そこで借りた本を大切に、丁寧に読んでいるにちがいない。あゝ、何という罰当りな言葉であろう。大変恥かしいことだと思つているがこれは本音であり、最も俗っぽい人間の姿ではないかと自分で秘かに嘆いている。与えすぎや、環境整備の出来すぎは本当に考えものだ。私が自称文学少女だった頃には考えられない話だ。あの頃は終戦直後。ハングリーの真只中であつた。本は貴重品。同じ人間でも環境でこれだけ変わるのだから我乍ら恐ろしい。読書は習慣でもあり、揃いすぎていくから読まないというのは、忙しさに負けて、その習慣を失つてしまった怠者の私の口実かもしれないと反省もしている。

我家の蔵書に私は一種の拒絶反応を起こしているが、近い将来、

私の最も良き伴侶となることはまちがひなく、その時は私は素直に夫に感謝しようと思う。その時が来るまで、又その時のために、日常の頭脳の訓練が必要と、昔の文学少年と次元の低い文学論を喋りながらへぼ甚を楽しんでいる。いい文学老人になるために……。

永田さんは、木幡御園に在住。民生委員として活躍されています。



宇治市中央図書館の効率的運営を図るため、図書館協議会が発足しました。


- 第一号委員 島 本 (会長)
- 第二号委員 植 竹 子
- 第三号委員 藤 林 博 憲
- 第四号委員 川 勝 邦 泰
- 第五号委員 前 山 一 雄
- 青木 次 彦 (敬称略)





### 図書館に来て


騒々しくて……………!!


- ★ 静かに本が読めないとの声があります。
- ★ 利用者の皆様に聞いてみました。


 子どもがうるさくて、ゆっくり本も読めないし子供が利用するところにしきりでもほしいです。

 そうですね。うるさいと思う時もあるけれど、私は借りて帰って読むのがほとんどだから、あまり気にならないですね。

 たしかに、静かとは言えないですね。でも親しみやすいし、子供ときても、同じ階だから、安心して本が選べます。

 係の方が、あまり、注意してもらえないみたいですね。それに、なんと言ってもおこらない親が多すぎると思います。よその子でも注意してやればいいんですが……。

 うちでは、図書館に入る前に、「図書館では静かにしなさい」と言っておかせてます。私達がくる時はそんなに騒々しくもないようです。

 そうですか。私は日曜日昼すぎによくきますが確かにうるさい。でも、本を見たり借りたりする人が多いのだから、ある程度は仕方ないのではないかと思います。

### <係より>

- ★ 図書館としては、子供たちにもルールを守りながら利用できるようになってほしいと考えています。
- ★ 職員も気をつけています。ご協力をお願いします。



### 宇治市読書クラブ協議会

市民図書室が昭和40年10月に開室され41年8月貸出開始（グループ制）その後、読書グループ交流会。グループ代表者会議等を重ね43年11月結成した市民の為の組織です。中央図書館が実現した今、その喜びと共に読書の輪を通して人々の「心と知」の交流の輪を広げ、「ふるさと作り」と読書の普及を願って知恵を寄せ合い活動しています。

その一つ、我が町宇治の歴史を辿って三年が過ぎ、本年も若原先生を講師に「郷土史四方山民俗話史」を継続します。又読書会・講演会・社会見学と「市民と共に」をモットーに計画を進めます。皆さんも運営に参加下さい。

### 宇治市史を学ぶ会

☆とき 第一第三木曜日 午前10時～12時  
 ☆ところ 中央図書館集会所  
 ☆講師 若原英弼 さん  
 宇治市史を読みながら、故郷宇治の歴史を学んでいます。若原先生のわかりやすい解説とそれぞれの事象にまつわる興味深い話を聞きながら、読み進めています。現在、第五巻を学習中です。みなさん方の御入会をお待ちしています。

### サークル紹介

### 宇治児童文庫連絡会

宇治児童文庫連絡会とは宇治市内の各地で活動している文庫が、お互いに連絡を取り合い、意見交換し、協力し合って、各々の文庫の発展・充実のために努力している会です。昭和五十四年発足当初は五文庫でしたが、現在は十二文庫になり、会として取り組んでいる主な活動は次の通りです。

- ☆毎月一回例会（第二金曜日） 午前 10時～12時
- 宇治市中央図書館集会所にて意見交換・連絡事項・計画等
- ☆学習会及びまとめの冊子作成
- ☆図書館、社会福祉協議会等への協力依頼。本の団体貸出し作業
- ☆京庫連との連携。講演会・学習会などへの参加

### 絵本の会

「どんな本を子供に読ませたらよいのか。」「私、絵本大好き。」など、いろいろな考えの人が集まって出来たサークルです。現在の会員は14名。毎月第一金曜日に中央図書館集会所で10時から例会を行っています。自分たちの選んだ本を持ち寄り、なごやかムードの中での集まりです。その成果をみてもらおうと、「お話し会」も開いています。不揃いの主婦達の集まりですが一度例会に参加しませんか。

### 郷土のはなし

## 巨椋池の変遷

巨椋池の干拓事業は、国営工事を基礎に、昭和八年(一九三三)に着工し、同十六年に完成しました。まる八年に及ぶ当時我国における農業土木の粹を集めた大工事でした。この事業で六三〇ヘクタールの新田が誕生、既耕地二二〇〇ヘクタールと合わせ大水田地帯が形成されました。干拓前の巨椋池は、木津川・宇治川・淀川とつながり、一大湖としての景観を呈し、洪水時の遊水池としての機能を有していました。又、一五〇種をこえる水生植物や四〇種余りの魚類の豊庫でもあり夏は蓮の花見でにぎわい、冬は水鳥たちが群がっていました。しかし明治末期の淀川改修工事以後、川の流れより分離され水質

が悪化、農作物の不振・漁業の不振に加えて、マラリアの発生など多くの問題を生じていました。これら問題を解決するため、地元住民の長年の要望の結果、国営施行事業として出発したのです。

昭和二十八年、近畿各地に大災害をもたらした台風十三号は、宇治においては宇治川を決壊させました。往年の巨椋池を再現させる濁流によって、干拓田は水没し、元の湖面に帰りました。

この大洪水を契機として建設省は治水事業として宇治川に天ヶ瀬ダムを木津川に高山ダムを新設し又、堤防の補強・河川整備をすすめました。

今日、干拓地にも都市化の波がおしよせ、新興住宅地・各種工場等がふえてきています。

中央図書館では、各種の郷土資料を収集しています。「巨椋池」や「お茶」の本など、寄贈をおまちしています。

中央図書館では、各種の郷土資料を収集しています。「巨椋池」や「お茶」の本など、寄贈をおまちしています。

### 今年度の行事予定

中央図書館では、読書普及活動の一環として各種行事を予定しています。

多くの方の利用をおまします。

・図書資料展示会(一般書)

「茶の本特別展示」(終了)

4月28日～5月19日

「敬老の日関係資料展」

9月

・老人におすすめる本を展示します。

「成人の日関係資料展」

61年1月

・新成人におすすめる本を展示します。

・テーマ別児童図書展示会

「春の本」 4月(終了)

「雨の本」 5～6月

「夏休みの本」 7～8月

「おじいさん おばあさん」 9～10月

・二カ月ごとにその時期に応じたテーマで展示します。

・お話し会

・毎月第四水曜日

3時30分～4時

(夏休みは、木曜午前)

・読書週間記念講演会

・秋の読書週間に市民文化センター主催の講演会を催します。くわしくは次号でお知らせします。



◎ 土曜日と日曜日もあいだいでいますので、どうぞご利用ください。

- ・ 休館日は
  - ・ 毎週月曜日
  - ・ 毎月末日
  - ・ 国民の祝日
  - ・ 年末年始
- ・ 本の貸出は
  - ・ 1人3冊以内
  - ・ 貸出期間は3週間
- ・ 登録は
  - ・ 宇治市にお住まいの方、市内に通勤、通学されている方ならどなたでも。

市内23カ所に移動図書館「そよかぜ号」が巡回しています。

- ・ 一世帯に20冊まで
- ・ 簡単な手続きで貸出
- ・ 貸出期間は次の巡回日(約28日間)まで
- ・ 日時、場所は毎月1日号の市政だより「そよかぜ号巡回日程」をご覧ください。

### 編集後記

中央図書館が開館して六カ月があわただしくすぎました。五十九年度の貸出冊数は、本館(十一月～三月)で十三万二千五百九十二冊。移動図書館で九万二千五百一十一冊。合わせて二十二万五千冊余になりました。今年度の貸出は、四十万冊を越えるものと予想しています。表紙は、移動図書館「そよかぜ号」をとりあげました。昭和四十四年に巡回を開始し、以来、動く図書館として市内を巡回しています。現在の車は昭和五十四年に更新したものです。積載冊数は千八百冊で、雨天でも巡回してあります。本館同様に御利用下さいます。今年度より、八月も巡回します。六月五日の県祭が終われば、宇治の町はもう夏です。宇治川の鶴飼や納涼花火大会など夏の行事もめじろおしです。楽しいけれど、きびしい暑さの夏に、趣向をかえて、緑蔭読書などで楽しませてはいかがですか。